

導入したテクノロジーの活用に係る伴走支援とは

株式会社TRAPE

齋藤 陽

令和6年度 神奈川県 介護生産性向上推進事業 概要

事業目的

令和5年度に介護ロボット導入支援補助金を活用して介護ロボットを導入したが、活用頻度や成果が十分ではないと感じている神奈川内の介護施設に対し、個別に助言等の伴走支援を行うことによって、介護ロボットの有効活用を通じた生産性向上を目指すこと

支援内容

課題の見える化に関する支援、課題を踏まえた適切な介護ロボットの活用に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、介護ロボット導入による効果の把握、取り組みの見直しに関する助言

支援対象

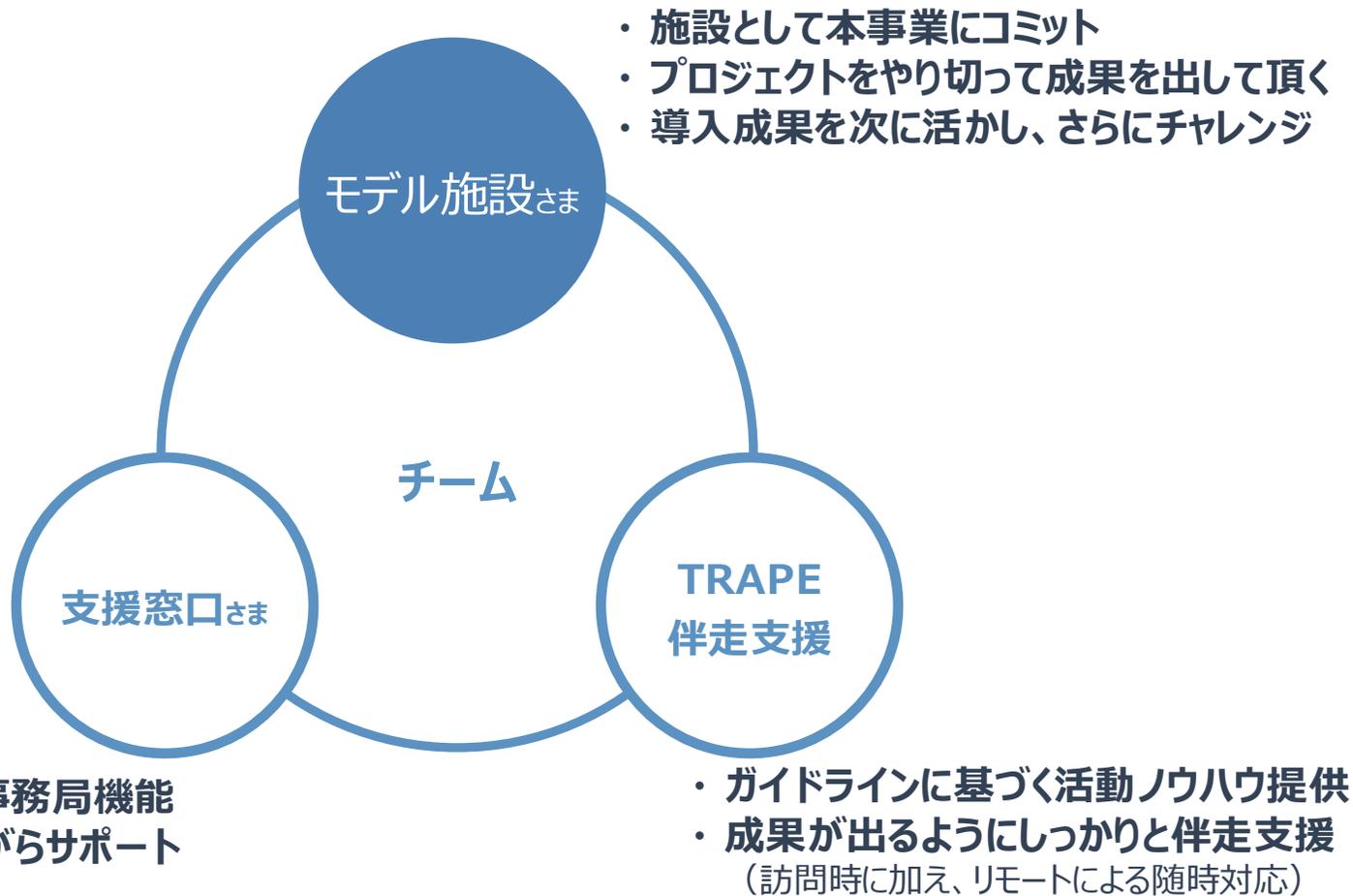
2施設（神奈川県令和5年度介護ロボット補助金採択施設49事業所から選定）

募集・選定の流れ

- (1) 「募集要領」「介護ロボットの活用のための伴走支援」のチラシを49事業所へメールで送信
チラシ内にはアンケートフォームのQRコードを貼付
- (2) アンケートにて伴走支援の希望を聞き取り、希望施設へは個別に事業説明と面談を実施
- (3) アンケート回答結果、面談結果から総合的に判断し決定

今回の取り組みにおける役割分担

モデル施設・相談窓口・業務アドバイザーが一つのチームとなり、其々の役割を果たすことで事業所の現場課題の解決、成果につなげた



テクノロジーの活用に係る伴走支援の考え方

介護における生産性向上とは、介護の価値を高めること

アウトカム

(定義) 介護の価値を高める

職員・利用者の
よりよいコト体験を
アップデートする

職員が
働きがいを感じる

利用者へ
よりよいケアを提供

アウトプット



現場の余力(時間・気持ち)を
生み出す

介護＝クリエイティブな仕事
だから余力が必要

生産性向上の
取り組みプロセス



2. 介護ロボット・ICT
テクノロジーの活用など
(介護助手の取り組み含む)

自分たちの現状に合った
段階的アプローチを
行っていく



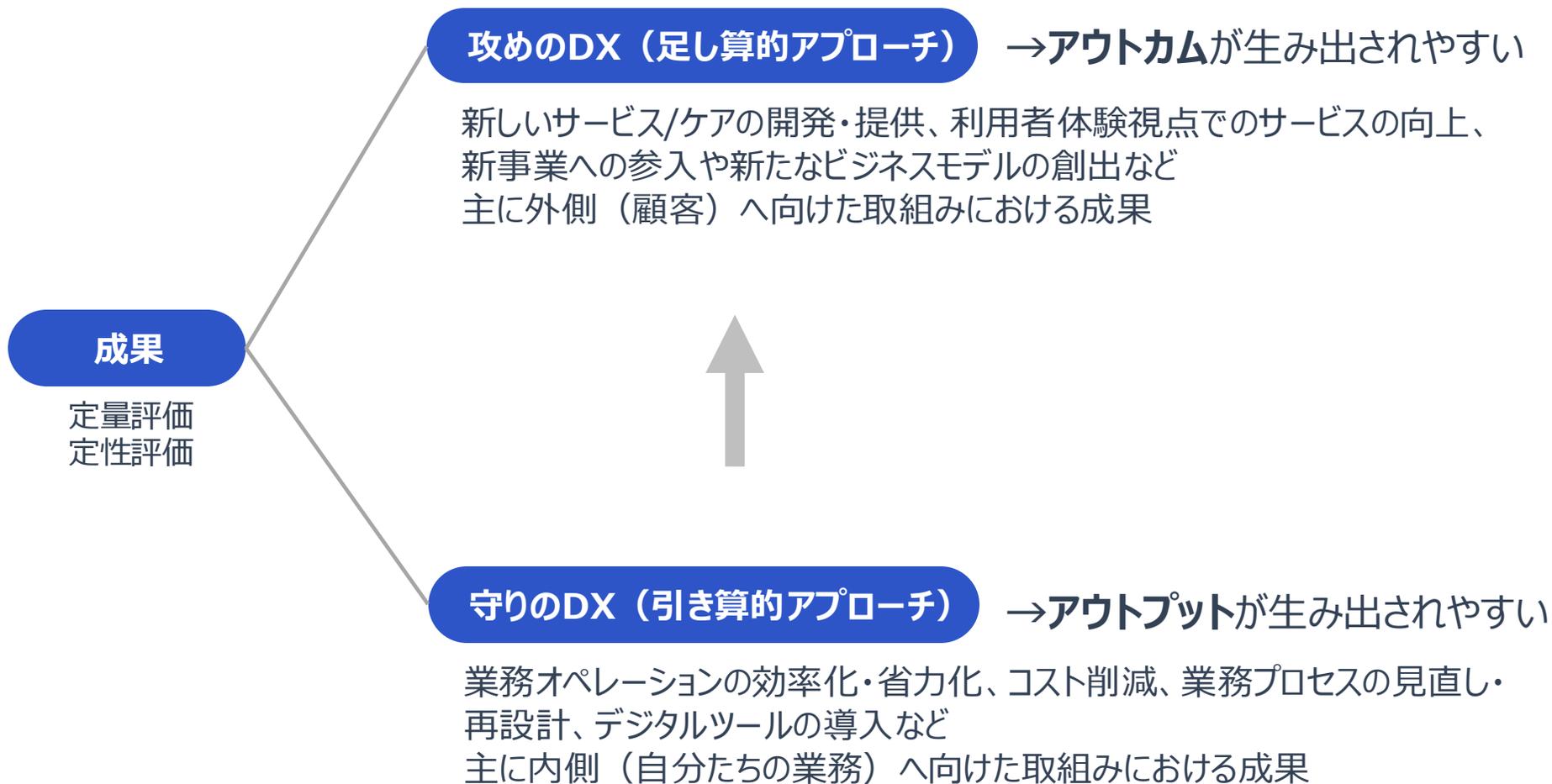
1. 現場におけるマネジメントの構築
(業務棚卸し)

課題



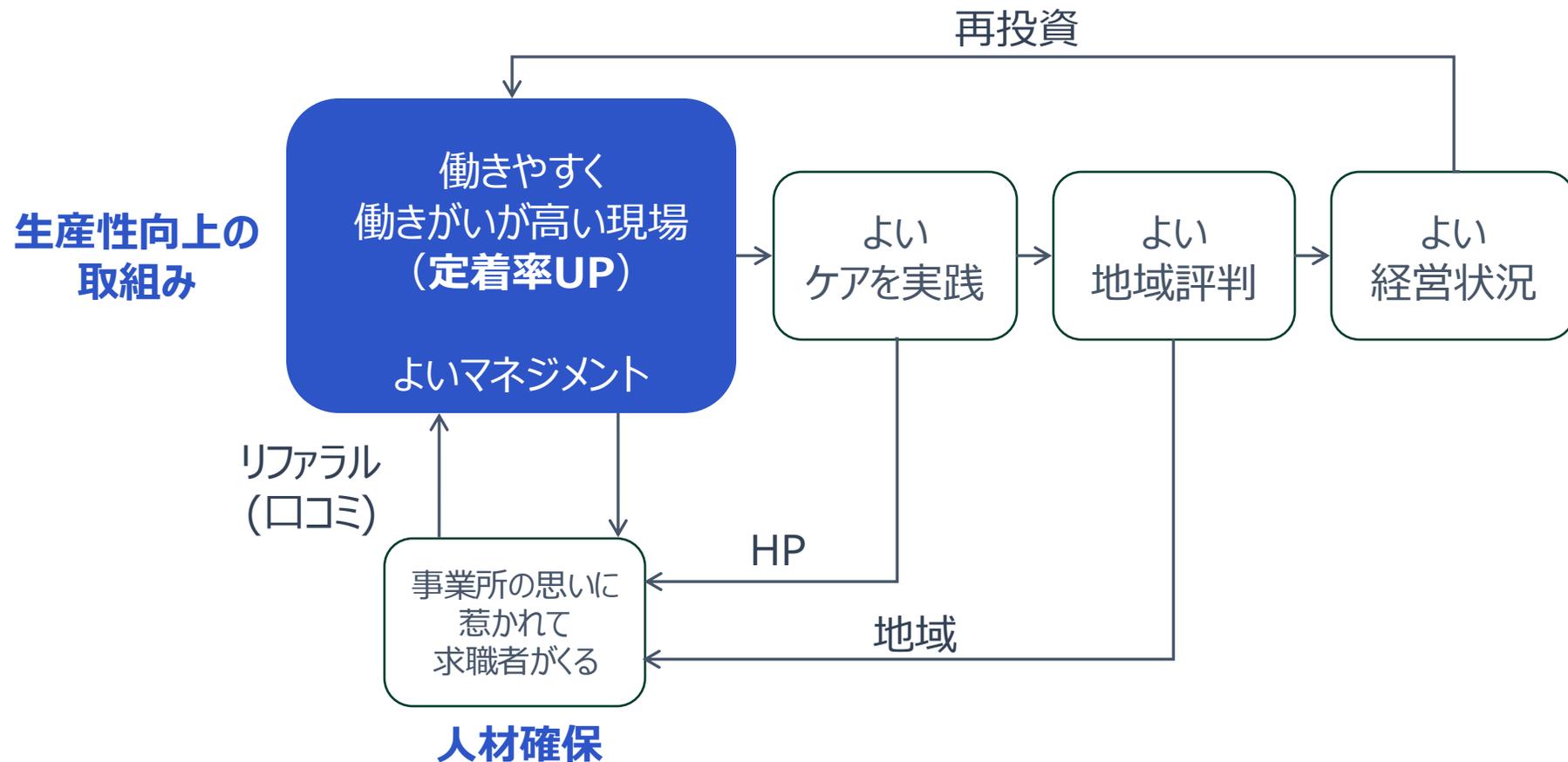
現場課題・法人課題

取組みに応じて生まれるさまざまな成果



働きがいの高い現場はさまざまな好循環を生み出す

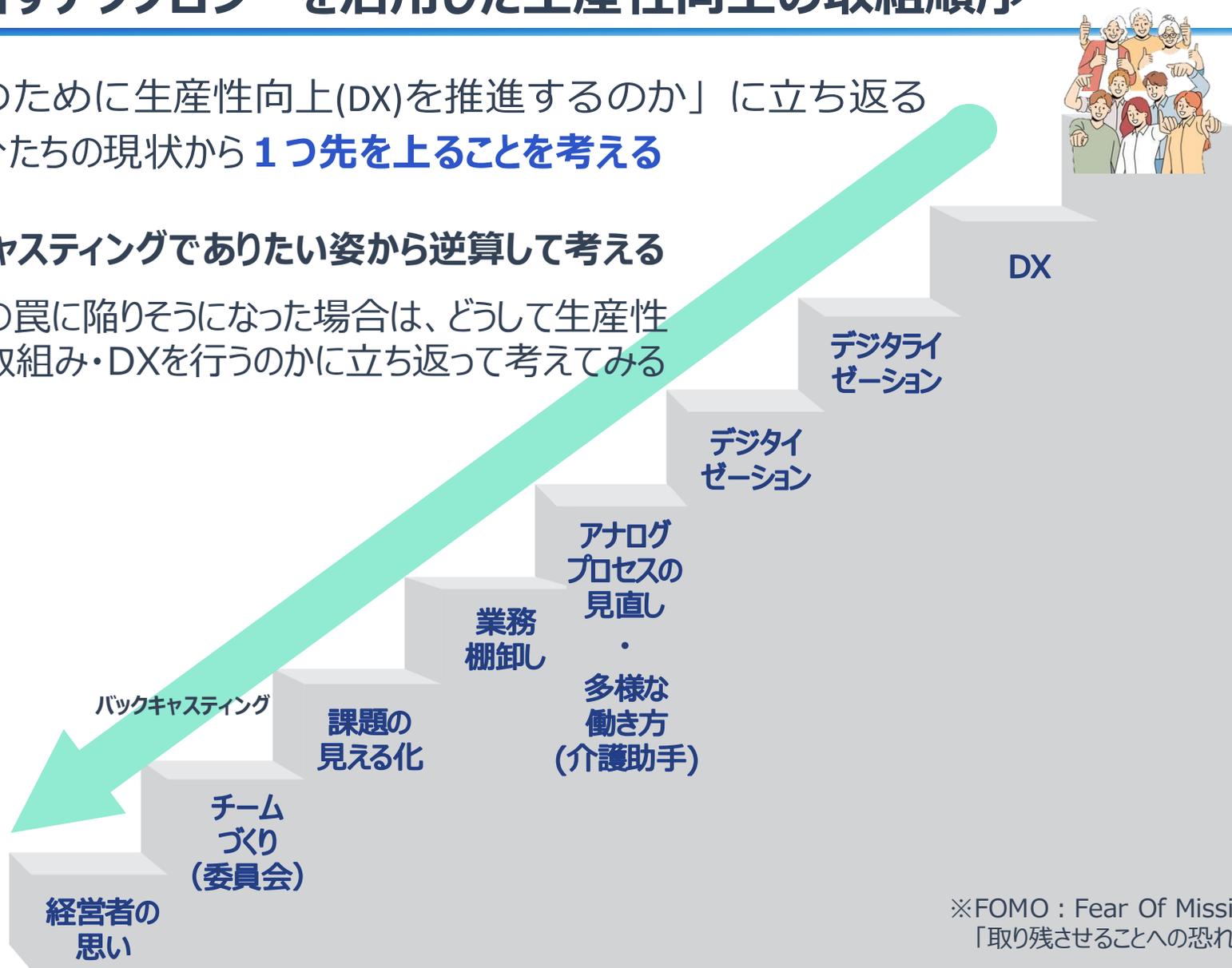
「働きやすく、働きがい」がある現場であることが重要



成果を出すテクノロジーを活用した生産性向上の取組順序

一度「何のために生産性向上(DX)を推進するのか」に立ち返る
そして、自分たちの現状から**1つ先を上ることを考える**

- バックカスティングでありたい姿から逆算して考える
- FOMOの罠に陥りそうになった場合は、どうして生産性向上の取組み・DXを行うのかに立ち返って考えてみる



※FOMO : Fear Of Missing Outの略
「取り残させることへの恐れ」という意味

生産性向上の取組み(改善活動)のステップ

“要注意”ここからスタートはリスクが高い

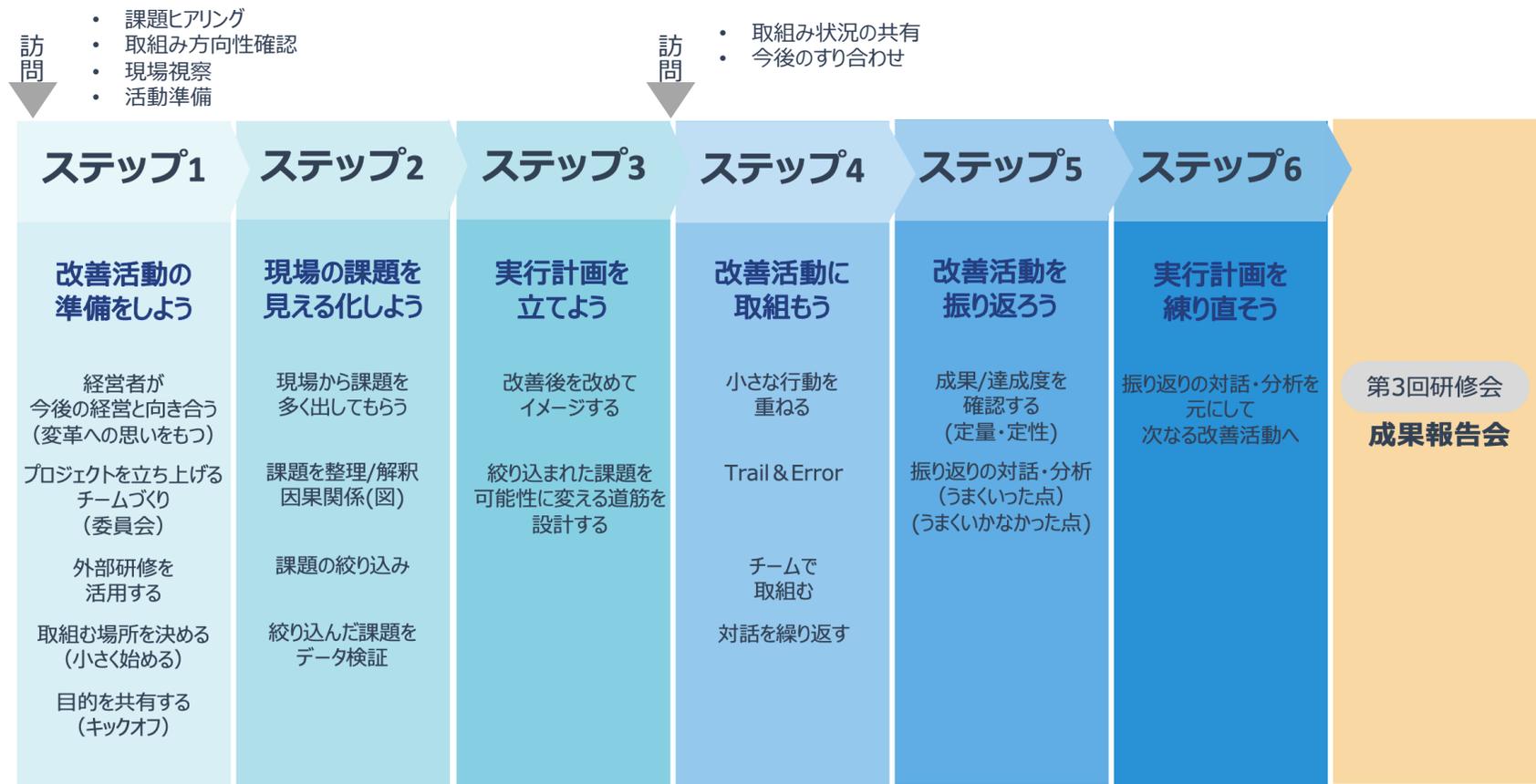
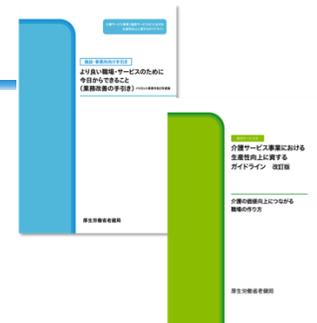


成功の秘訣は準備8割

伴走支援の進め方について

伴走支援モデル事業の取組み(改善活動)のステップ

- ✓ チャットやweb会議ツールを使って常にリーダーに寄り添いサポート！（リーダーを孤独にしない！）
- ✓ モデル事業所の実情にあった伴走支援をカスタマイズ！
- ✓ ありがたい姿の実現のために生産性向上の取組を行うチームづくりをサポートし成果を生み出します！



第3回研修会
成果報告会

6ヶ月

TRAPE 事業所の成功体験を生み出す 伴走支援を実施

伴走支援の全体スケジュール

内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① モデル事業所の選定											
事業所応募・選考プロセス				■	■						
モデル事業所の決定				■	■						
② モデル事業所への伴走支援											
第1回目訪問					■						
① 改善活動の準備					■	■	■				
② 現場課題の見える化						■	■	■			
③ 実行計画の立案							■	■			
中間での進捗共有（第2回訪問）								■			
④ 改善活動の実行								■	■	■	■
⑤ 改善活動の振り返り・まとめ									■	■	
⑥ 成果発表会の準備・実施										■	■